

また、就職した134人のうち5人が薬局、病院薬局だったほか、数人が臨床検査部門に就職した。企業には90人(13%)が就職した、このうち医薬品関連企業「医薬情報担当者」(29人)の多くは私立大出身者だった。

保険薬局編

調剤チェーン、さらなる再編

厚生労働省が公表した直近の薬局数は「2011年度の衛生行政報告例概況」によると、11年度末時点で5万4780カ所と前年度を1779カ所上回り、増加を続けていることが分かった。薬局数が増加する背景には、病院・診療所が院外に出す処方箋を出す割合「医薬分業率」が伸びていることがある。厚生労働省がまとめた11年社会医療診療行

為別調査結果から、医科の院外処方率が前年から2.5ポイントと比較的大きな伸びを見せ65.3%に達した。

医療機関で処方される外来処方箋のうち、保険薬局で調剤される割合が7割近くに迫っている。院外処方率は病院では71.6%、診療所は63.0%。診療所で08年度に一時停滞したものの増加を続け、分業率は増加した。これに伴い保険薬局が扱う処方箋枚数は約7億5000万枚、調剤金額は約6兆3000億円に達しようとしている。

厚労省の2010年度「国民医療費の概況」によると、前年度から総額で3.9%増の37兆4202億円であり、医薬品の費用を含め調剤に係る医療費は全体の17%に迫っている。調剤部門は今や大きな医療経済“市場”を形成している。

別な見方では、規模の増大に伴い求められる責任、期待は大きくなっており、薬局・薬剤師に対する見方は年々シビアになってきている。

また、1店舗当たりの収入という面では、さほど増加しているわけではない。1人の患者が同じ薬局で1カ月に調剤を受ける平均回数は減少。処方箋受付1回当たりの点数(金額)の構成比は、薬剤料(医薬品代)が約74%を占め、薬学管理料など薬剤師の“取り分”は減少傾向にある。

経営環境が厳しい中でも、株式公開の調剤薬局チェーンでは、株主の意向に沿って、収入・収益を確保し、成長し続けることが迫られ、M&Aの動きは今後一層進むものと見られている。株式会社の調剤薬局チェーン、オーナー企業とが入り交じり、他の流通業へ

の吸収合併などを経て、業界の様相は大きく変容するものと推測される。

今後、業務内容はどう変化していくだろうか。一部進んだ薬剤師は調剤のみに限らず、OTC医薬品を用いた患者ケア、あるいはトリアージ能力(受診勧奨)の向上を目指した研修、実践に取り組み始めた。在宅医療における服薬指導・服薬支援を介した地域医療連携を実践している薬局も少なくない。

常に時代の変化を見据え、患者・家族、生活者のニーズを捉え、地域における多様な職種との連携を保ちながら、自らスキルアップを図り、多職種にも頼りにされるキャリアアップを図ることが必須な時代を迎えつつある。それが6年制薬剤師を薬剤師自らが求めた理由ともいえる。

フロンティア
阪神西宮
フレンド薬局

関口 遙さん



「実社会の中で、薬剤師としての責任感の大きさを日々感じています」と話す

関口遙さんは、薬学6年制

の第1期の薬剤師。今年3月に神戸学院大学薬学部を卒業後、地元の兵庫県にも店舗を構える全国調剤チェーンの「フロンティア」に入社した。現在、勤務する阪神西宮フレンド薬局は、地域の中核病院である兵庫県立西宮病院の門前に位置することもあり、多くの診療科の患者からの処方箋調剤に対応する。

6年制教育では病院と薬局それぞれ2カ月半ずつの長期実務実習が義務づけられている。「病院と薬局の

両方の実習を経験する中で、実際に、患者様とたくさん話ができる機会は、病院よりも保険薬局の方が多いと感じました。患者様とお話ししながら、ご自身の病気をどのように捉えられているのかまで理解していければいいなと考えました」と、学生時代の実習の経験を通じて保険薬局を志望したという。

6年制薬剤師としての実務実習の経験は、就職後にも役立つ部分は多いという。「実習のときは、薬を取り出すだけでも一苦勞で、錠剤の束ね方、処方箋の読み方も分かりませんでした。大学からも離れて、実習先ではお客様のようイメージもあると思いますが、自ら学んでいく姿勢が必要だと思います。大学の勉強は知識として当然あるのが大前提ですが、できる限り、実際の現場を知ることが刺激になると思います」と

“失敗”乗り越え理想の姿目指す

エールを送る。

保険薬局での日常業務の中では、教えられた通りの説明とは違う想定外のことを聞いてくる患者さんも少なくない。「服薬指導のお薬とは関係ないことを聞かれ、全く答えられなくて戸惑ってしまったことはたくさんあります。そんな時には先輩の薬剤師さんに助けていただいています。習ったように取り組んでも失敗することもありますし、やはり、臨機応変に対応しなければ、患者さんの満足につながらないということを実感しています」と新人薬剤師らしい一面も隠さない。

関口さんの場合は、フロンティアの薬局に患者として通っていた時期があり、実際に働く薬剤師の姿を見ていた。「その時に、雰囲気明るく優しい方が多かったと感じました。患者の立場で見てそう思うのであれば、働いても一緒に仕事ができると思い、フロンティアを選びまし

た」という。

保険薬局での就職先として希望する人向け「就職活動で企業説明会に参加したり、採用担当者の話を聞くのも大切ですが、実際の現場の薬局の姿を見ることも必要だと思います」とアドバイスの言葉を寄せる。

あと3カ月ほどで、社会人として1年目を迎える。「当たり前のことですが、患者様は、服薬指導の際には、言葉1つひとつを全て真に受けとめられるため、しっかりと答えできるようにになりたいです」と関口さん。

自身についても「まだまだ日々の業務で精一杯なところはありますが、患者さんから、服薬指導などのちょっとした会話でも、リラックスして聞いていただけるような薬剤師になりたいと思いますね。声を出さないまでもそう感じていただけるとうれしいですね」と理想の薬剤師のイメージを笑顔で語る。

私たちは、ワタキューグループの一員です。

フロンティアは全国に140店舗の調剤薬局を展開しております。

「心」を社とする医療、福祉、健康関連企業であるワタキューグループの一員として、調剤だけでなくとどまらず、栄養相談、居宅支援まで患者様のニーズに幅広く応える

「トータルケア」を基本に、心温まる薬局サービスを目指しています。

患者様に信頼される薬のスペシャリストとして、フロンティアとともに学び、成長し、

私たちと一緒に新時代の薬局を築いていきませんか。



株式会社フロンティア

ワタキュー薬局 フレンド薬局 フォレスト薬局 ほか

〒532-0003 大阪市淀川区宮原3-5-36 新大阪トラストタワー14階
TEL 06-6396-8100 FAX 06-6396-8101 E-MAIL soumu@frontier-web.jp

全国140店舗・関西65店舗

(2012年12月現在)

私たちと一緒に働きませんか？

会社説明会 毎週土曜日開催！

店舗見学可

※めでいしーんねっと及びホームページでご案内しています。

採用フリーダイヤル

0120-89-7060

ホームページ

http://www.frontier-ph.com